

病棟患者ミーティングにおける患者の相互作用と看護者の関わり方の検討

南1階病棟：○伊藤 廣子

佐藤 玲子・佐藤 千代・猪股こず枝

信州大学医療技術短期大学部：近藤 浩子

1. はじめに

病棟ミーティングとは、病棟で起こる人間的な交流を、もっと積極的に治療に活かそうという考えで生まれた治療共同体理念の具体化であり、検討の場である¹⁾。

当病棟においては、患者ミーティング（当病棟では病棟会議という）週1回、患者と看護者が参加して行っている。その場では、患者からの要望や、看護者からの伝達事項などが、話し合われている。たとえば、依存欲求の強い患者が、看護者に、個人の持物を管理されている患者を見て、自分の物も預かってほしいと要求する。しかしその希望が受け入れられないと、不調を訴えたり、その時の看護者を、非難するという事が、しばしば起こる。

これについては、武井は、「病棟内では、患者同士の間には、かなりはっきりした相互作用があり、また、患者と職員の関係が、患者の状態を左右することがある¹⁾」と言っている。

これまでの研究で、患者ミーティングの場における看護者の関わりは、管理的、支配的であってはならないことが述べられている^{2) 3) 4)}。しかし、具体的に患者ミーティング場面での看護者の関わりについて、再構成し、分析したものはない。

2. 目的

病棟会議の場で、看護者が対応に困るという場面を再構成し検討することにより、患者間の相互作用と、看護者の治療的関わりについて考察する。

3. 研究方法

- 1) 研究期間：1991年6月～1992年3月
- 2) 研究者2名が継続的に、病棟会議に参加し、司会と補佐と逐語録を行う。
- 3) 病棟会議終了後、鈴木らが⁵⁾ 集団精神療法の評価ポイントとしているテーマ、流れ、雰囲気、患者の様子、看護者の気持ちに従ってスタッフミーティングを行う。
- 4) 問題があると思われた場面を再構成し、検討する。

4. 病棟会議の構造

メンバー：入院患者対象で自由参加

司会は当日選ばれた患者、または看護者

スタッフ：研究者2名が参加し、司会補佐と逐語録をとり、記録を行う。

日 時：火曜日 11時～11時40分

場 所：病棟の会議室

内 容：患者からの要望、看護者からの伝達、レクリエーションの計画、アフターミーティング、

鈴木⁵⁾らの集団療法の評価ポイントを基に行う。

5. 結果及び考察

「患者の食べ物が無くなる」というテーマで、話し合われた3場面を再構成し、その時の看護者の気持ちから分析し、考察する。(資料1～3)

この場面での看護者とは研究者であり、番号は発言の順番を表わしている。

場面1：冷蔵庫の移動

患者用冷蔵庫に入れておいた食べ物が無くなったという患者の訴えがあった。その対策として、冷蔵庫を、看護者の目の届く場所に移動することを、スタッフ間で話し合った。これを看護者から、病棟会議で提案したところ、患者からは、「移動すると不便になる。」という発言や、「私の物も無くなった。」という発言があった。しかし特に反対意見はなかったので、看護者は、採決で決めようとした。その時医師が、「簡単に決めていいのか。」と、止めた。その言葉で看護者は黙ってしまい、引き続き冷蔵庫の使用法方について話し合った。結局、冷蔵庫は移動しないことになった。

この場面で看護者は、冷蔵庫の移動は、管理上必要なことであり、採決さえすれば決まると思っていた。ところが、それを医師に止められ、驚いたのと同時に、看護者失格を言い渡された感じがして、大きな衝撃を受けた。そのために、何も言えなくなってしまい、黙ってしまった。そして、患者の言葉を聞いていると、患者にとっての冷蔵庫の必要性和、その移動による不便さ、物が無くなってしまったことに対する様々な気持ちがあることがわかってきた。

この場面の再構成により気づいたこと

話し合いの前半は、看護者が、管理的に自分の提案の方向に持っていこうとしていた。

看護者は、冷蔵庫を移動して、患者を管理したり、スタッフ決定を患者に指示し、指導するのが、看護者の役割であると思っていた。

しかし、その指導していた看護者が医師に指導されて、患者と同じ立場に立たされた時から、一人一人の患者の思いが看護者に見えてきたのである。

場面2：ヨーグルトとマーガリンが無くなった

患者Oが、病棟会議で「冷蔵庫に入れておいた、ヨーグルトとマーガリンが無くなった」と発言した。看護者が、みんなに「他にも何かなくなったものがあるか」と、問いかけると、他の患者からも、物を取られたという話が出た。すると患者Iが「Oさんの場合は、看護者が預かったらどうか」という意見を出し、それに答えて、患者Oが「私の場合は、看護者に言っても預かってもらえなかった」と発言した。この話し合いは、他の患者から出された「自分の物は、自分で管理する」という話に看護者が乗る形でまとめられた。

この場面で、看護者は、患者Oの物が無くなるという話は嘘だろうと思った。食べれないという言い方で、調子の悪さを訴える患者Oが、命綱と言う位に大切なヨーグルトが無くなった時に、看護者に訴えず、この場で、発言するということが信じられなかった。

これは看護者に、もっと関わって欲しいというアピールであり、これまでの看護者の関わりに対する非難だと受け取った。このような個人的要求をこの場で扱えば、患者Oとの1対1の対決になると思った。そのために、この話題を避けて、みんなに「看護者が監視することと、盗みは違うんじゃないか。」と、「物の管理」の話しに持っていった。しかし、患者Iが患者Oを支持する意見を出したので、患者Oは「私の場合は、預かってもらえなかった。」と看護者への不満を表現した。そして会議終了後も、直接看護者に、「私の場合は、預かってほしい。」と言いに來た。

この場面の再構成により気づいたこと

患者Oは、要求を受け入れた看護者を良い看護者、受け入れないと悪い看護者と評価し、スタッフを混乱させる危険性を持っているため、看護者は、患者Oの問題を扱いたくなかった。そして、日頃患者Oに抱いている印象からその発言を信じられず、避けようとしたため、患者Oの話題を、話し合いに取り上げることができなかったと思われる。

場面3：牛乳がなくなった

前回に続いて、患者Oが、蠅帳にいれておいた牛乳がなくなったと発言した。看護者はそれを取り上げ「どうしようかね。」と他患者に投げかけ、患者Oの牛乳がなくなったことについて、みんなで話し合った。その中で、患者Oは「私の場合は、パンと牛乳だけはとっておいてほしい」と、自分の食事だけは、看護者に管理してほしいことを話した。しかし、話し合いを進めるうちに、「取る人の心理を考えたら、きっと病気のことやらが絡んでいると思うし。」と他者の気持ちも考えた発言をし、看護者の「みんなと同じでいいかな」という自己管理を意味する言葉にうなづいた。

この場面で、「牛乳が無くなった」と発言された時に、看護者は、患者Oが前回の看護者の対応に不満があり、看護者に挑戦していると感じた。しかし、その挑戦に対して、場面②の様に話題を変えて逃げる訳にはいかなくなって、患者Oの「牛乳が無くなった。」話をするしかないと思った。そしてその発言について、みんなで話し合った。

その中で、患者Oは、みんなの前で自分は看護者に特別扱いして欲しいことを話した。しかし、最終的には、自分もみんなと同じ、自己管理でいいと認めた。

この場面の再構成により気づいたこと

看護者には、日頃自分の気持ちを歪曲した形でしか表現しない患者Oに対する不信感と、患者Oの特別扱いしてほしい要求を受け入れることで、スタッフから非難されるのではないかという不安があった。しかし、看護者への挑戦的言葉から、逃げられなくなった時に、看護者は、これらのこだわりを気にしていられなくなり、居直った。そのため、今のここでの患者Oの発言を取り上げた。

患者Oは、自分の発言をみんなに話し合ってもらったことで、無理な要求をしなくなり、看護者の言葉も聞けるようになっていた。

6. まとめ

この研究によりわかった事

1) 患者ミーティング（病棟会議）における患者の相互作用

- ① 患者は、グループに受け入れられた体験をする事で、他の患者や看護者の言葉も受け入れるようになる。
- ② グループの中では、患者同士が、受け入れ合ったり、反発し合ったりする事で、支え合ってる。

2) 患者ミーティング（病棟会議）における看護者の関わり方

患者の相互作用の結果より、看護者は、患者が自由に自分の気持ちを出せる場を保障することである。その関わり方

- ① 患者と平等な関係を作る。これは看護者としての立場ではなく、話し合いの中のメンバーの一人として参加することである。
- ② 患者と自由な関係を作る。これは、患者に対するこだわりを、話し合いの中に持ち込まないことである。また、自分の考えを、患者に押しつけないことである。
- ③ 患者を受容する関係を作る。これは、患者の言葉を、ありのまま受け止めて、それをグループで話し合うことである。

7. 終わりに

この場面の中で、看護者は、患者と同じ立場に立った時に、はじめて患者の話が聞けるようになっていた。また患者と正面から向き合った時に、はじめて患者としてではなくOさんという人が見えてきた。それは、看護者が患者の管理や指導の役割を降りたことで、患者と話し合うことができたという体験であった。

加藤らは、「治療集団としての特色として、第一として、自由と平等を常にもっている。第二として、成員は自発性が必要とされる。第三として、受容的である⁶⁾」ことを上げている。

この3場面の話し合いを通して、患者らは、冷蔵庫に必要以上の物を入れなくなり、また食べ物が無くなる事もなくなった。この事からも、話し合いを通して、自分の行動や感情を認識し、洞察を得る方法である。集団精神療法の理解を深めることが必要であり、今後の課題である。現在、病棟会議は、集団精神療法の場として発展してきている。

参考文献

- 1) 武井 麻子：看護セレクト14「看護診断とケアプラン」篠田知璋，宮本真己編 1989 116-124
- 2) 杉山貴美子：閉鎖病棟における部屋別話し合いを試みて 第13回日本精神科看護学会誌 1988 134-136
- 3) 藤田 栄治：小グループ活動の試み 第14回日本精神科看護学会誌 1989 252-254
- 4) 中垣 均：開放的治療を支えてきた全体ミーティング 第14回日本精神科看護学会誌
- 5) 鈴木 純一：大集団精神療法，吉松和哉編 精神療法の実際 1986 81-89 金原出版
- 6) 加藤 正明：集団精神療法 日本精神医学全書5 治療 1965 87-122 金原出版
- 7) 吉松 和哉：集団精神療法とは何か 山口 隆，増野 肇，中川智幸編 やさしい集団精神療法入門 1987 18-35 星和書店

〈資料1〉

場面① (H 3.7.9)

患者用冷蔵庫の盗難対策として、看護者の目の届く場所に冷蔵庫を移動することを看護者間で決定した。そのことを病棟会議で伝達するように言われた。

患者の発言	医師の発言	看護者の発言	看護者の感じたこと
<p>②S：氷を作ったり冷蔵庫の掃除をするのに不便</p> <p>③S：夜なくなるのなら下膳室に鍵をかけたらいいんじゃないですか</p> <p>④N：卓球するスペースが狭くなる</p> <p>⑤T：どうしても大事なものを入れなきゃならないのか</p> <p>⑥S：どういうものがなくなるのか、深夜だと思</p> <p>⑦K：朝買ってきて、昼なくなることもある</p> <p>⑧O：マジックを黒にしてほしい、黒の方が目立つ</p> <p>⑨T：タッパーの蓋だけなくなることもある</p> <p>⑩ Dr.M：簡単に決めていいのか皆で納得できたか</p> <p>⑪S：場所が変わらない限り盗みなんてなくなる</p>		<p>①物がなくなるから看護者の目の届くホールに冷蔵庫を移したいが、何か不便なことはありますか</p> <p>⑩採決していいですか</p>	<p>いっぱい物がなくなってるんだ</p> <p>昼も夜もなくなってるんだ</p> <p>みんな賛成してくれているんだな</p> <p>ちょっとの不便は仕方ない</p> <p>スタッフの決定を了解してもらえないと私の力不足をスタッフから批判される</p> <p>看護者のくせにお前は何をやっているんだと言っているみたいだ</p> <p>私の気持ちを代弁してくれた</p> <p>移さないでよくなる点なんてありっこない 先</p>

患者の発言	医師の発言	看護者の発言	看護者の感じたこと
<p>⑬ Dr.M：よくなる点, 不便になる点を考えてみては</p> <p>⑭ S：詰所の冷蔵庫は利用できないのか (患者たちはなくなった物をあげていくアイスクリーム, ヨーグルト, ケーキ, 牛乳…)</p> <p>⑮ S：アイスクリームなんかも欲しいときに買ってくるようにしては</p> <p>⑯ I：売店に売ってないアイスクリームとかあるんです。そういうのはどうしたらいいんですか。</p> <p>⑰ S：実験的にホールに移してみたら, 冷蔵庫に頼らないでその都度買えば</p> <p>⑱ Z：お見舞にもらったりもするんですね</p> <p>⑲ K：冷蔵庫の掃除のとき, 看護婦さんが捨てる物もあるのでは</p> <p>⑳ N：移すとフリーザーの霜取りが大変になるお茶パックとか</p> <p>㉑ S：霜取りが大変なのは看護婦さん, お茶パックはNさんKさんの問題</p>		<p>⑳物がなくなることと冷蔵庫を移すことは結びつかないかな。 時間がきたので保留にしておきます。</p>	<p>生は何を言っているんだ</p> <p>患者にとっては看護者が考えている以上に冷蔵庫は必要な物なのだ 確かに各前のない物, 期限切れの物, 腐っている物を勝手に捨ててたなまずいな 不便なことは思っていた以上にいろいろある</p> <p>すべての事を冷蔵庫移動だけで解決できない</p>

〈資料2〉

場面② (H 3.11.5)

患者Oが看護者用の冷蔵庫に自分のヨーグルトを預かってほしいと言ってきた。しかし、看護者は患者Oだけ特別扱いをするのはよくないと思いそれを断った。その2週間後、患者Oが病棟会議で冷蔵庫に入れておいた物がなくなったと発言した。

患者の発言	看護者の発言	看護者の感じたこと
<p>②O：ヨーグルトもなくなったけどマーガリンもなくなった 食事のとれない私にとってヨーグルトも主食みたいなもので、命綱なんです</p> <p>④I：Uさんの奥さんがヨーグルトがなくなったと言っていた (※患者Iは過食のため看護者が食べ物を管理している)</p>	<p>①前回、冷蔵庫の物がなくなったという意見がでしたが</p> <p>③他になくなった物はありますか</p> <p>⑤今まで何度もこの件について話し合われてきた各前もきちんと書いておくとか、冷蔵庫に鍵をかけたらどうか。看護者から見える所に冷蔵庫を置くとか、でも取る人のどうしようもない気持ち、取られる人のつらい気持ちいろいろあるね 看護者が監視することと盗みは違うんじゃないかな</p>	<p>命綱と言うくらいに大切なものなのに、なくなった時点で看護者に言ってこないでこの場でまたマーガリンもなくなったというなんて、本当になくなったんだろうか。信じられない。 いつものように特別扱いを看護者にアピールしているんだろう 患者Oも他患と同じに自己管理すべきだ なくなることの一般的な話で進めたほうがよさそう</p>

患者の発言	看護者の発言	看護者の感じたこと
<p>⑥M：そんなの甘い甘い</p> <p>⑦H：防止策なんてないよ</p> <p>⑧I：他の病棟では詰所に冷蔵庫あるよ</p> <p>⑩T：他の物も取られることある？</p> <p>⑪………，トレーナー，ズボン，洗濯物などが 出た</p> <p>⑬I：私もポシェットがなくなって悔しい思い をした 看護婦さんも探してくれた。Oさんのよう な人は詰所で預かってもいいんじゃない</p> <p>⑭K：アメリカでは自分の物は自分で管理する のが原則。日本じゃ取られると他人のせ いにするけど</p> <p>⑮O：私の場合は，入院当日に預けた物以外は 預かってもらえなかったんですね</p>	<p>⑨詰所の前にあってもいつも監視できない 他の病棟でもなくなることもある</p> <p>⑫取った人にもわかってもらえるように悔しい 思いを出してくれればいいんじゃない</p> <p>⑯看護者が預かるということは，食物までみん なが管理されるってことじゃないかな 自分で自由に出し入れできることに意味がある んじゃないかな</p>	<p>何でIさんがOさんの代弁するの 腹が立つ</p> <p>看護者の云いたいことを言ってくれてよかった</p> <p>Oさんの場合は預かる必要ないし預かりたくない</p>

患者の発言	看護者の発言	看護者の感じたこと
①⑦K：詰所に預けるってMさんの煙草になっちゃうよ (Mさん：痴呆症のため煙草を看護者が管理している)		自己管理でまとめられそう。よかった
(病棟会議終了後) ①⑧O：詰所の預かりはその時々で融通を持たせてほしいんですね	①⑨そうねえ…… (曖昧な返事)	やっぱり特別扱いを要求していたんだ

〈資料3〉

場面③ (H 3.11.12)

前回の病棟会議で「マーガリンもなくなった」と発言した患者Oが、また「牛乳がなくなった」と発言した。

患者の発言	看護者の発言	看護者の感じたこと
②O：冷蔵庫だけでなく蠅帳の方の牛乳もなくなった	①先週、盗まれていやな思いをしている人がいるという発言があったが、それに加えて思うことは冷蔵庫に食物を入れていること自体が食べたい人の気持ちを挑発していることも考えよう Oさん どう？	自己管理の必要性を認識してもらおう
④K：取られやすい場所に置かないと	③どうしようかね	今度は牛乳か、看護者に挑戦的だなくなったことは信じられない

患者の発言	看護者の発言	看護者の感じたこと
<p>⑥K：牛乳は1日くらい冷蔵庫に入れなくても大丈夫だよ</p> <p>⑧A：私のはなくなるらない</p> <p>⑩O：取る人の側の心理を考えたらけっしていい気持ちはしていないと思うし、きっと病気のことやらいろいろとからんでいると思うし（やわらかい言い方）</p> <p>⑫O：私は夜、追加眠剤を飲むから、私の場合は2時間たってもパンと牛乳だけは置いてほしい</p> <p>⑬O：うなずく</p> <p>⑭K：自分で朝、起きたら先ず持って行く。自分で管理してもらおう</p>	<p>⑤取られないように自分で管理するってことかね</p> <p>⑦蠅帳には原則として2時間入れておいて2時間たったものはこちらで片付けることしてきたが、Aさんどう？</p> <p>⑨なくなったからと言っても看護者が用意できるわけでもない。そこらへんが難しいと思うがどうしてなくなったのか？Oさんとしてはどうしてほしい</p> <p>⑪今まで通りでいいかな</p> <p>⑬今まで2時間くらいたったら声かけたよねそれでいい？</p> <p>⑮冷蔵庫と同じこと。蠅帳にあると食べたくなくなると言うことだよ</p>	<p>Aさんもいつも朝食を蠅帳に入れたままである</p> <p>Oさんのだけなくなったなんで嘘でしょう</p> <p>前回、私が言ったことと同じことを言っている。進歩したかな。 ⑩のようなことが言えるOさんなら、少しは看護者の言葉も受け入れられる状態じゃないかな</p>